

和歌の浦 短歌ワークショップ 講評短歌選出作品・応募者（13首）

| | 講評作品 | 氏名/ペンネーム |
|---|---------------------------------|-----------|
| ① | 祈禱寺の五百羅漢のその一人ややにうつむき視線合わさず | 瀬戸内 光 |
| ② | 砂浜にあしが触れるか触れないかくらいのところで君が手を振る | 瀬崎薄明 |
| ③ | 思い出は光打ち寄す砂浜の波の引き去るきわの足跡 | 苗村青鷺 |
| ④ | 繋がらぬかわりに海に手を浸しあなたはそちらで元気ですか | 外山雪 |
| ⑤ | 浮袋穴が開いてて沈んでく九歳なのに死んじゃうのかな | ばせり |
| ⑥ | かにがいたリュックの下にかたほうのはさみが大きいよこにはしった | あっちゃん |
| ⑦ | かほばなの咲く浜影に吾ひとり君の便りの絶えて久しき | 中原 美智子 |
| ⑧ | 吐き出すや海を目指したあの息はきっと私の情熱だった | 山下ワードレス |
| ⑨ | 凧いでいる海を愛するあの人ふと遠い目で我を見ている | 宮田恵里 |
| ⑩ | 和歌山の枕詞のうつくしき語彙もて詠へあさもよし紀伊 | 女郎花 |
| ⑪ | 和歌の浦力士とっていてごめん君の故郷はこんなにも青 | クルーズ・トム |
| ⑫ | サンダルを奉納したと母ちゃんが波を拜んでみなを笑わす | 海の神さまへご挨拶 |
| ⑬ | きれいなほうの記憶の棚にしまひこむ海の匂ひのするサンダルを | 有村桔梗 |